

平成25年3月8日

新城市長 穂積亮次 様

新城市総合計画市民委員会

会 長 井 上 秀 樹

新城市総合計画の進捗状況について（答申）

平成24年9月24日付け新企2・1・2で総合計画市民委員会に諮問のありました新城市総合計画の進捗につきまして、以下のとおり答申します。

## 記

### 平成23年度実施計画書に掲げた施策及び事務事業の成果測定及び評価について

#### 今年度の評価概要

我々市民委員が事業の目的や具体的な内容、特にこれまでの実施経過について理解するには評価指標に頼るほかありません。しかし、事務事業評価シートから判断できる内容は少なく、市民委員として責任ある判断のためには情報が不足していることや、誤記入が散見される等から、わかりにくいものとなっています。このことは、事業の内容が判断できるシートへの改善を例年お願いしているところでもあります。

そこで今年度は、市民委員が現在の新城市にとって特に重要であると思われる事項について、集中して調査し、審議するテーマ選定方式をとりました。

総合計画に掲げる「市民満足度の向上」のためには市民の不安要素を取り除くことが欠かせません。今回の答申では、将来への発展的な希望のため、市民の不安要素を提示し、それを取り除くための委員の提案も併せて示すものとしします。

#### 事業抽出

事業の抽出にあっては、市民として関心度の高いもの、現時点で市の施策として行うべき重要度の高いものといった点を念頭に置き、市民委員内での調整をおこないました。意見は多岐にわたり、多様な施策、事業が提案されましたが、現在の市が行うべき重要性から4つのテーマを選定しました。

テーマ1：地域自治区・・・タイトル「みんなが参加する地域自治区」

テーマ2：防災・・・タイトル「弱者を守るための防災」

テーマ3：観光・・・タイトル「観光戦略（収入アップのための）」

## テーマ4：教育・・・・・・・・タイトル「教育の現状を知る」

なお、タイトルは、市民として事務事業を見るにあたり、4つのテーマに対し注目したい点を明確にするために作成したものです。

そのため、今回記載する事業が、昨年度までの優先的に実施すべき事業に対応するものでもあります。

### 調査の方法

今年度の調査は、評価シートに記載された目標値などの事項に集中するのではなく、テーマに関して市民委員自身がそれぞれの暮らしの中で見たり、聞いたりするうえで感じた事柄を市民の意見として委員会の中で報告し、意見を練り上げることを中心に行いました。併せて、担当課のヒアリングによる情報収集も行いました。

### 各テーマの意見

#### (1) 地域自治区「みんなが参加する地域自治区」

総合計画に定める中でも重要事項である「市民自治社会の実現」のためには、今もっとも注目すべき事業であり、力を注ぐべき事業でもあります。

地区への度重なる説明会の開催、また、市内すべての地区に準備会を設置するに至った点を評価します。しかし、事業が実施される平成25年4月を目前に現在の市民の認知度は、地域自治区という名前のみ知っている程度であると我々市民委員は周辺の状況から感じます。市民委員の中でも、地域協議会設立準備委員会ができたことは区長等を通じて認識していますが、メンバーが何人であるか、どういう話し合いが行われているかなどそれ以上は伝わってこないというのが実情です。

来年度、地域自治区が始まるにあたり、このような状況で話し合いが行われて決定がなされるようでは、真に地域の課題を拾えるのかを心配してしまいます。

これは、行政のシステムだけでなく、地域組織の課題でもあると思いますが、地域自治区制度を最大限に活用することを考えると、地域自治区の会議内容を市民へ伝達する方法を早急に検討していただくことを要望いたします。

#### (2) 防災「弱者を守るための防災」

東日本大震災はまだ市民の記憶に新しく、災害対策に対する不安を市民は一様に持っています。今回担当課とのヒアリングにより想像よりも幅広く災害対策がなされていることが理解できました。しかし、市民の不安は生活に身近な所に存在しています。

特に検討いただきたいのは、現在の自主防災組織です。自主防災組織の構成は、地区の代表や家長で組織されていることがほとんどです。そのため防災訓練もその方た

ちを中心に行われています。しかし、昼間に災害等が発生した場合、勤務先にいる人が多いため、自主防災組織が機能しないことが容易に想像されます。

自主防災組織は災害時に動ける人で組織するべきであると考えます。またそういう人に情報を与えることで、その人がさらに動けるようになることが期待されます。

実際の活動ができる組織作り、併せて、幅広い年代の多くの市民が参加できる防災活動が求められます。

行政は、それを目標にして、大震災の教訓や反省を踏まえつつ自主防災組織、避難所などを初めとする対策を進めてください。

#### 【提案・留意点】

- ・地域に暮らす女性を活用いただきたいと思います。女性ならではの情報ネットワーク、女性の視点、住居周辺にいる確率が高いなどの特徴は、災害時に地域の人的情報をよく知り、動くことができます。そして女性ならではの気遣いが必ず全体の防災力の向上につながります。

- ・ティーズ回線でのIP電話は停電時に不通になるようです。NTT回線と大きく異なる点であり、災害時に通信手段が一つ消滅することになるため、市民への周知や改善を検討願います。

- ・市の弱点として道路が弱いことがあげられます。災害時に冠水し、通行不能になる道路は数多く存在します。また、平常時にも緊急自動車が侵入できない道路も数多く存在します。緊急時、災害時の避難の面からも道路整備を進めてください。

- ・避難所までの避難経路が危険な場合が見受けられます。地域と話し合いを行い、現地を確認し、実態に即した避難所の設定を今一度検討ください。

- ・災害時要援護者の対策について、現在、行政と区長間で把握し、対応されているようですが、地域の助け合いで災害時の弱者を救済するためには、援護を求めるものの情報が地域に必要です。これについては、個人情報の取り扱いの問題があるとは思いますが、各戸の持つ情報を災害時に活かすような方策など、地域で救済が必要な人にたどり着けるような検討を進めてください。

#### (3) 観光「観光戦略（収入アップのための）」

ヒアリングから担当課の前向きな姿勢がうかがうことができました。しかし、一方で、従前からの企画がうまく進んでいない点が見受けられます。

観光は市民にとって非常にわかりやすい分野であり、多くのアイデアが市民の中に存在している分野であることを認識してほしいと思います。

そのため、市民は、市の観光戦略やこれからの方向性を知りたいと思っており、それがわからないことが不満につながります。我々市民委員が考える観光の戦略は、こ

れまでの時代のように行政が先導を切るものではなく、能力のある市民の協力を得て、活用することで、その人が観光資源と市民のアイデアと事業の協力者やボランティアをコーディネートして行けるような仕組みを作っていただきたいと考えます。

#### 【提案・留意点】

- ・観光資源の価値は時代とともに変化していくものであり、それに対応するには新しい価値を創造することを常に考える必要があります。歴史資源、自然資源についてこれまでにない価値を模索していく必要を感じます。例えば、委員会の意見の中では、環境面でも価値の創造が可能であり、廃棄物を徹底的に減少することで誘客が可能になり、その一方でコストの減少が可能になるという意見がありました。
- ・観光事業を行う際には地域が活性化し、地域の収入につながるような、また、市の収入につながるような要素を取り入れてください。
- ・以上の提案についても、行政が全てを企画実施するのではなく、イベントの企画から運営までのいろんな段階のアイデア募集をしてみたいかがでしょうか。

#### (4) 教育「教育の現状を知る」

昨今のいじめに関する事件報道から、教育分野での市民の関心はいじめ問題にあります。当委員会でも今年はいじめ対策事業中心に話し合いを行いました。市にもいじめ対策事業などシステムはあるようですので、実際の運営について教育委員会に説明いただきました。

幸い、本市においては深刻ないじめはないとの説明でしたが、いじめの件数は子供の自己申告だと伺いました。子ども本人が言うに言われず、問題が潜在化していることも考えられます。表面的な件数にとらわれず、事前に察知し、良い方向に指導できるよう、教育関係諸氏のさらなる研鑽を望みます。

いじめに関する問題は、現代の社会的風潮や事務の質量から、学校教育現場での難しさがあることは重々理解できます。しかし、教師でないと発見できない面が必ずあるはずですので、問題が顕在化することに臆することなく、適切に処理し、安全な学校教育の場を保っていただきたいと思います。

難しい話ではありますが、学校の役割と家庭の役割を行政と市民がもっと理解して、子供のために我々大人も成長する必要を感じます。

また、小学校再配置の推進事業については、関係者の尽力により平成25年度に鳳来地区、作手地区で2つの学校が開校されることに努力を感じます。

学校再配置は住民にとって重い課題ですが、子どものためにも再配置の時期や方法、再配置後の学校のビジョンを住民に示して協議を進めていただくことで、不安の解消に繋がると考えます。

### 【提案・留意点】

・社会が少子化となり、PTA 等での学校に関係する人が地域でも少なくなっています。このことにより市内学校の情報が得られにくくなり、学校が市民にとって遠いものとなりました。このため、報道等での他県のニュースに新城市を重ねて市民は不安になります。

しかし、一点、市民が手軽に教育の成果を実感できる場面があります。それは登下校時のこどもたちの挨拶です。元気な子供の挨拶はそれだけで学校での教育環境や良好な親子関係が想像でき、市民は教育面に対する安心を得ることができます。

挨拶だけがすべてではありませんが、挨拶は、礼や人とのコミュニケーションを養う第一歩であります。ひいては人付き合いやいじめ対策につながるとも考えます。

市内で展開している「あいさつ先手」「ハイという返事」「はきものそろえ」の三つを身につける「あはは運動」は子供の成長にとって良い影響を与えるものと理解しますので、今後も広めて行くことを期待します。

・小学校再配置については、新しい小学校が早く地域と一体となって教育活動ができるよう一層の支援を望みます。

以上、本市がめざす将来像「市民がつなぐ 山の湊 創造都市」の実現に向けて、重点施策や主要事業が着実に推進され、答申内容の成果が実ることを切に願い、市民委員答申とします。